

書評

【評者】
豊田英樹

ハッピー胃腸クリニック院長



実地医家ならこれを読み！ PPI(プロトンポンプ阻害薬)治療 のコツがわかる本

木下芳一，高橋信一 編

●A5 頁136 2013年
定価 2,625 円(本体 2,500+税 5%)
[ISBN978-4-524-26905-1] 南江堂刊

プロトンポンプ阻害薬(PPI)は胃酸分泌を強力に抑制する薬で、現在では食道・胃・十二指腸疾患の内科治療の柱となる薬であり、内科診療を行うためにはPPIによる治療は避けて通ることはできません。つまり、自信を持ってPPIを適切に使いこなすことができれば、胃酸関連疾患としての食道・胃・十二指腸診療の達人になれるわけです。「実地医家ならこれを読み！」との力強いネーミングからも、日本における胃酸関連疾患診療の実地医家でのレベルアップを切望する編者の情熱が伝わってきます。

一般に広く処方されるようになったPPIですが、適応や投与方法、投与期間に医療保険上の制限があるため、PPIを処方したら査定された経験のある先生もあると思います。そうした過去の苦い経験からPPIは使いづらいと感じておられる先生も少なくないと思います。PPIの酸分泌抑制作用は強力であるので、どのような投与の仕方をしていても治療効果は十分であろうと以前は信じられてきました。しかし、現在では常用量のPPIを投与していても効果が不十分な症例が約半数程度も存在することが問題となっており、十分な治療効果を得るためにはPPIの使用法に工夫が必要であることがわかってきました。

本書の「PART 1. PPIのfrom A to Z」では、PPIの基本知識、効果的に使うコツ、副作用、他剤との相互作用、PPIの使い分けについて、緻密に検討された結論が詳しくかつ端的に記載されています。この部分を読んでみると、木下先生の説得力のある、そしてすこしユーモラスな口調が聞こえてきそうな気がします。本書はきわめて中立な立場で執筆されていますので、

読者のPPIに関するすべての疑問をすっきりと解決してくれます。

本書の「PART 2. 実践編 PPIの上手な使い方・コツ」では胃食道逆流症、消化性潰瘍、NSAIDsや低用量アスピリンによる潰瘍再発予防、機能的ディスペプシアなどが疾患別に、その病態、PPI投与前に患者さんに説明する内容、PPIを使った治療の実際、効果判定はどうするか、PPIが効かなかったときの対処法、症例から学ぶPPIの上手な使い方などが、とてもわかりやすく丁寧に説明されています。特に「PPIが効かなかったときの対処法」は、プロの消化器科医が治療に抵抗する患者さんの症状をどのように治療しているかがわかり、とても勉強になります。また、治療の理論が理解できても、実際の症例に向き合うと投与の仕方に悩むことも少なくありません。「症例から学ぶPPIの上手な使い方」を読めば、学んだことをどのように実際の臨床に落とし込んでいけばよいかを会得することができます。

また、NSAIDsや低用量アスピリンにより出血性潰瘍を発症しますと重篤な状態が引き起こされる可能性も考えられますので、これらの薬剤を投与される先生方にも本書でPPIの理解を深めていただければと思います。

実地医家に必要なPPI治療のコツがギュッと絞りと詰め込まれたA5判136頁ですので、一気に読むことができます。コンパクトな本ですので読んだ後は診察室の片隅に置き、ときどき必要なページを読み返す。これであなたも酸関連疾患の診療の達人です。